

奄美大島・喜界島農業の動き

■令和8年2月

1 奄美市農業青年クラブ主催でほ場視察研修を実施！

1月29日に奄美市農業青年クラブ主催でほ場視察研修が開催され、青年クラブ員等計14名が参加しました。研修では野菜部門・花き部門の指導農業士や、地域を代表する農家のほ場を視察し、「SNSを使った情報発信の重要性」や「各農家独自のこだわり」などについて意見交換を行いました。青年クラブ員は果樹部門の参加者が多く、活発に質疑が飛び交い、他品目の栽培を行う先輩農家との交流を新鮮に感じているようでした。次年度以降も有意義な研修となるよう支援していきます。



ほ場を視察する青年クラブ員

2 地域計画重点地区で大区画化等加速化支援事業のモデル活動を開始

1月30日、喜界町役場で大区画加速化支援事業の取り組みについて、川嶺集落の大規模農家2戸および関係機関と打合せを行いました。川嶺集落は、地域計画を活用して農地を大規模農家に集積・集約することになっており、ほ場の大区画化により作業効率性の向上が期待されています。喜界町では、本事業の取り組みについて川嶺集落の大規模農家2戸をモデルとし、その結果を地域に波及させる方針です。今後もモデル農家や関係機関と連携し、ほ場の大区画化の促進に取り組んでいきます。



大規模農家・関係機関との話し合い

3 喜界町たんかんハサミ入れ式及び中学生農業体験

2月5日、喜界町果樹振興会主催、あまみ農協喜界事業本部共催のたんかんハサミ入れ式が開催され、併せて将来の担い手確保に向け、喜界中学校1年生が農業体験を行いました。式では、会長からたんかんの状況の説明や喜界町長から祝辞があり、参加者がハサミ入れを実施しました。中学生は収穫体験と試食を行い、喜界町の農業概要やパッションフルーツ・マンゴーの特性、農業大学校や研修支援制度に関する説明も受けました。多くの参加者が集まったことで、たんかんの食味評価が高まりました。



たんかんへのハサミ入れ

4 県青年農業者会議において、青年プロジェクト部門で最優秀賞を受賞

2月6日に青少年会館で、県青年農業者会議が開催されました。各地区青年農業者会議で選抜された青年農業者によるプロジェクト発表が行われ、大島地区からは園田裕一郎氏が発表しました。園田氏は、ドレインベルトを用いた排水対策によるパッションフルーツの収益性向上について発表し、新技術を用いた課題解決と経営改善が高く評価され、最優秀賞を受賞しました。来年度開催される九州沖縄青年農業者会議において県代表として発表することとなり、関係機関とともに支援していきます。



園田氏によるプロジェクト発表

5 昨年を上回る出品数「奄美群島たんかん品評会」が開催

2月6日、奄美群島農政推進協議会・あまみ農協主催で、令和7年度「奄美群島たんかん品評会」が奄美市で開催されました。梅雨明け後の干ばつや夏季の高温など、厳しい気象条件下で栽培されたタンカンでしたが、初めて出品された和泊町を始め、昨年の55点を上回る63点が出品されました。審査の結果、L・2L部門それぞれの上位各3点を金・銀・銅賞とし、特別賞2点を含む計8点を表彰しました。平均糖度はL11.8、2L11.5と、いずれも昨年より1度程度高い結果でした。



審査の様子

6 令和7年度奄美大島肉用牛経営技術研修会を開催！

2月6日、奄美家畜市場で「奄美大島肉用牛経営技術研修会」を開催し、認定農業者・認定新規就農者・関係機関等計31名が参加しました。研修では、畜産経営分析の必要性、永年草の栽培管理技術、改訂版子牛育成飼料給与マニュアルについて講義がありました。活発に質問が挙がるなど、参加者の意欲的な姿がみられ、アンケートでは、講義内容について、約8割以上が「とても満足」または「満足」と回答しました。今後も、研修会等の開催により管内農家の「学ぶ場」の創出を図ります。



研修会の様子

7 来島者へタンカンをプレゼントしてPR

2月10日、奄美大島空港で来島者へのプレゼントによるタンカンのPR活動を実施しました。プレゼントに用いたタンカンは、2月6日に実施した品評会に出品された外観・品質とも高レベルのものであり、入賞したタンカンも同時に展示しました。プレゼントに用意した450セットの2個入り袋は、早々になくなり、「初めて食べたがとても美味しかった！」「どこで買えるの？」などの反応があり、上々のPRとなりました。今後もPR活動を通じて奄美タンカンの知名度アップを図っていきます。



タンカンのプレゼントによるPR

8 喜界島でスマートかん水の実証に向けた取り組みを開始

2月13日、喜界町役場でさとうきびのスマートかん水実証の打合せを行いました。この実証は、スマート農業技術の開発・供給関係事業を活用し、摂南大学農学部と連携して、島内4か所に設置した微気象観測システムのデータからさとうきびの水分の蒸散量を推定し、必要なタイミングで散水を行い、かん水作業の省力化と散水量の削減を目指すものです。今後、スマートかん水を通じた作業の省力化や生産性向上を目指し、関係機関や実証農家と連携を進めていきます。



スマートかん水実に関する検討